

「共助社会づくりを進めるための東京都指針～ボランティア活動の推進を中心に～」の概要について

「共助社会づくりを進めるための検討会」提言による課題等

東京2020大会のレガシーとしてのボランティア文化を定着するための仕組みを確立

視点1 多くの人の参加意欲を高める

指針1 ボランティア活動を身近なものとする

指針2 優れた活動を社会に紹介する

指針3 障害者、高齢者、外国人などの多様な活動を支援する

主な施策例

- 親しみやすいイメージ定着に向けた広報
- 具体例から活動の魅力を発信するシンポジウムの開催
- ポイント制度の検討
- 継続的・先進的取組を行う団体への表彰制度の創設
- 高齢者によるボランティア活動に対する支援(参加者同士のつながり構築の支援等)
- 障害者によるボランティア活動に対する支援(健常者とのペアによる活動等)
- 外国人によるボランティア活動に対する支援(大使館等との連携による情報提供の充実)

視点2 活動しやすい環境を整備する

指針4 活動に関して量・質ともに充実した情報を提供する

指針5 多忙な人も参加できる短時間メニューなどを開発する

指針6 活動側と受入側とをつなぐコーディネーターを増やす

指針7 平時において災害に対する体制を整える

主な施策例

- ウェブサイトに掲載する情報の質・量の充実
- 多忙な人でも気軽に参加できる「ちょこっとボランティア」メニューの開拓
- 新たな活動の場となる第三の居場所(サードプレイス)作り
- 活動側と受入側をつなぐコーディネーターの養成
- ボランティアコーディネーション力の向上
- 災害時ボランティア活動を円滑にする取組(災害ボランティアセンター運営マニュアルの見直し等)

視点3 多様な主体が集積する東京の特性を活用する

指針8 地域や社会の課題解決に向けて多様な主体が協働する

指針9 東京全体で共助社会づくりを進める気運を高める

主な施策例

- 地縁団体とNPO、企業などが連携したモデル事業の構築
- 区市町村共助社会づくり担当者連携推進会議(仮称)
- 「東京都ボランティア活動推進協議会」による気運醸成など